

# News Letter

公益財団法人 集団力学研究所 No. 58. 2014.9.9

ホームページ <http://www.group-dynamics.org/>

## ごあいさつ

代表理事（所長）杉万俊夫

ニュースレター58号をお届けします。

集団力学研究所は、2011年10月、公益財団法人に衣替えをし、早、3年が経とうとしています。当研究所は、1967年の設立以来、諸外国との国際共同研究にも力を注いできました。欧米の研究機関はもちろん、中国社会科学院、サナタダルマ大学（インドネシア）、ハルツーム大学などアジア、アフリカの大学とも共同研究を推進しています。それらの共同研究の成果は、当研究所のオンライン・ジャーナル「集団力学」に掲載されています。「集団力学」は、J-STAGE という電子ジャーナルデータベースに登載されていますので、だれでもアクセスすることができます。

最新号には、増田達志主任研究員による「内モンゴル沙漠化防止活動の20年」という長編論文も掲載されています。春になると飛んでくる大量の黄砂は、内モンゴルの沙漠化が大きな原因です。その沙漠化を何とか食い止めようとする20年にわたる悪戦苦闘の道のりが描かれています。その道のりは、阿部公房の小説「砂の女」を彷彿とさせます。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

（「集団力学」へのアクセス ---- 「J-STAGE」にアクセスし、誌名欄に「集団力学」と入力）

## 研究所からのお知らせ

「ビデオ講座 集団力学」好評販売中

組織診断アンケートは「集団力学研究所」で

「看護管理者支援プロジェクト(博多地区)」

詳細は最終ページをご覧ください！

## 移転2周年記念イベントを開催しました！

### 講演会「元気なうちにこそ考えておきたい、自分と家族の最期の医療」

村上華林堂病院緩和ケア病棟 臨床心理士 藤井悟子

私は、日頃からのちの問題と向き合う立場にいることや、母を看取った際の自身の体験などから、『いのちの終え方は最後の生き方。そこで受ける医療に悔いを残さぬためには？』という問題に関心を持つようになりました。そしてこのことを多くの方とともに考えたいと思い、そのガイドブックとしてこの3月に、



(会場は研究所が入っている築100年の町屋の二階)  
「延命治療について知っておきたいこと～ここに添う最期」(700円)という小本を西日本新聞社より出版しております。



このテーマでの講演をというお話を旧知の杉万所長からいただいて、集団力学研究所のイベントにはふさわしくないのではと、ためらいながらお引き受けし、当日に臨みました。皆様が耳を傾けて下さったことをありがたく存じます。そしていくつかが、ご自身の大切な体験を語って下さりつつ、ご意見や質問をいただきました。それらが皆様の心に沁みて、私のつたない話を深めて下さったこと、今も暖かく心に残っております。また、

た、こういう話は、たとえば職場の社員研修のような場でも取り上げられるとよいと思うとのことご指摘は、今後の活動に向けてヒントと励ましとなりました。このような機会を下さってありがとうございました。

当日博多は山笠の折り。講演会後の懇親会のさなか、会場前の路地を恵比寿流れ

の山が駆け抜けました。長く福岡に住んでおりながら初めて見る、その迫力。この大きなおまけをいただいて、大变得した思いでした。重ねてお礼申し上げます。



(研究所の前を疾走する山笠)



(夕刻、町内の支援者を回る幹部、お礼に博多一本締めを)

## 新しい動きのご報告

### 看護管理者支援プロジェクトの創設

看護管理者支援プロジェクト 福岡富子

組織において重要な役割を果たすことが求められている看護管理者は、常に学ぶことを通して、自己の在りようを変化させる必要があります。

学ぶ場として、研修、公開講座などがさまざまな機関で実施されていますが、受講するチャンスの少ない看護管理者も多く存在すると思われます。向学心のある看護管理者にはその意識がさらに高まるように、一方、そうでない看護管理者、学習方法の見いだせない看護管理者には、学習意欲が向上するような仕組みが必要です。厳しい医療現場で仕事する看護職員が幸せを感じることができるのは、看護管理者の在りよう次第であると言っても過言ではありません。そして、幸せな看護職員がケア提供者であれば、患者さんや家族のみなさんに幸せを感じていただけると信じています。

このような状況を踏まえて、決して営利に走るのではなく、高名かつ素敵な講師の先生方にご講義いただき、看護管理者の変化に資すること、精神的な支援を行うことを目標に、2013年4月、看



看護管理者支援プロジェクト（以下プロジェクト）を創設するに至りました。

プロジェクトを構築した初年度は、大阪において、8個の研修と8個の公開講座を開催しました。研修については、延べ40以上の病院から約300名、公開講座については、延べ50以上の病院から約600名が受講しました。このように多数の施設から多くの看護管理者の参加を得ることができた要因は、高名な講師を招聘したこと、看護管理者に求められる能力向上に旬の話題を提供したこと、研修においては参加型の学習方法であったこと、受講料が高価でないこと、等があげられます。

以上のように、初年度のプロジェクトの存在意義は、参加施設数、受講者数共に数としては期待以上であったと感じていますが、数の多少にのみ囚われるのではなく、それぞれの看護管理者が学習したことを現場での新たな状況にいかにかに適用させ実践するかにもかかっていると云えます。

看護管理者の在りよう次第で、組織は確実に変化します。この看護管理者の在りようの変化に注目した取り組みは、社会的に評価され得る可能性が高く、プロジェクトを社会貢献事業の一つとして確立したいと願っています。今後は、看護管理者の在りようの変化を促す取り組みをどのように体系化し、魅力あるものに仕上げていくか、加えて経営基盤をいかに整備するかが

喫緊の課題であり、支援して下さる皆様のお力をいただきながら、課題達成に精一杯努力する所存です。

プロジェクトへのご理解とご支援をどうぞよろしくお願い致します。



## 「組織塾」本格スタート

「組織塾」塾頭 八ッ塚一郎

「……異業種交流の場として、人材育成の悩みや組織活性化の可能性を共有する場として、

- ・参加しておもしろく
- ・不思議と話が弾み
- ・いつの間にか役に立っている

ような、生き生きとした会になればと考えております。新しい時代の組織を先取りする、対話と実践の集いを、みなさまと切り開いて行ければと存じます。」(第1回案内状)

こう銘打って、今年(2014年)の1月から、いよいよ「組織塾」の活動が本格的にスタートしました。

前年(2013年)の秋から準備会を重ね、集まっていたいただいたメンバーは6名(男性4名、女性2名)。銀行やインフラ、鉄道やメディアなど、いずれも福岡を代表する大企業で、人事と人材育成、秘書と管理など、組織運営の最前線を担う方々にお越しいただくことができました。

文字通り最前線を担う世代、一番忙しい方々がメンバーのため、日程の調整だけでも大変です。「組織塾」という名前も耳慣れないもので、何をどうする集まりなのか、今後どう進めていくのか、正直戸惑いも多い立ち上げでした。各自がテーマを持って活動し毎月開催できる「地域塾」とは、性質も運営も異なることをあらためて実感しました。

しかし、1月と2月、最初の2度の例会は、自己紹介から大いに盛り上がりました。同じ福岡の企業とはいえ、業種も違えば雰囲気もまったく違います。ドラマでしか知らないような世界の興味津々のエピソードや、プロならではの該博な専門知識に、おのずと話が弾みます。その一方、いまだきの若者や新入社員の不思議なメンタリティ、彼らに翻弄されながらなかなか変わらない古い組織など、共通するテーマの存在もおぼろげに見えてきました。

もとより、考えるべきテーマはあまりにも大きく、どこかに正解があるわけでもありません。しかし、日々の戸惑いや新たな試みを、業種を越えた座談を通して共有することには、少なからぬ意味があるのではないかと思います。さらに、研究者からの疑問や投げかけと、組織の現場での実感や経験がぶつかって、思いがけない発見が得られるような場になればと考えています。

年度始めの時期は小休止とし、6月に第3回、8月に第4回と、ここまで隔月ペースで例会を開催、まずは満1年を目指しています。



## 「地域塾」レポート

### ある駅前町内会の挑戦・第4弾

「新町内会長誕生～町内会改革は第2段階へ～」

福岡市K区・駅前町内会 服部正

#### <これまでの経過>

「会長になり手がいない」ことから始まった駅前町内会の改革は、この4年間、前会長（筆者）体制のもと、「楽しく、身の丈にあった町内会活動」と「いざという時の助け合い」を標榜し、多くの無駄な町内会業務の見直しや硬直した上部団体からの離脱などかなり思い切った改革を実現してきました。

また住民同士の交流を深めるため、「花見会」「お盆の縁日」「やきいも大会」と3つの恒例行事を定着させました。課題は、一人の人材にたよらずみんなで役割分担し、会長も定期的に交代するのかがポイントでした。

#### <新会長の誕生>

昨年の夏から役員会（3か月に1回）や各組で常会（昨年度は2回）を開催し、「現会長はやめるが次期会長を支える」「会長業務はスリム化し役割は分担」を強調して、住民同士での話し合いを深めました。その結果、「組長の順番制」を活用し、各組長（3人）のなかから会長を選ぶことが決定しました。丁寧な話し合いや「花見会」「おやじの飲み会」なども役に立ちました。

新会長の体制になり、従来の方針に加えて「ちいさな防犯」「ちいさな防災」が新しいテーマに加わりました。前会長から一歩前に進んだ方針です。

また従来から力を入れていた子供会や商工会との連携も進みました。8月には、

恒例行事「ちいさな縁日」を雨にも関わらず、無事成功させました。これまでわが町内会に対し「排除の論理」の態度をとっていた上部団体の幹部が会場に現れ、「ごくろうさん」と挨拶するなど「何かが変わる予感」もします。

しかし前会長（筆者）にとっては、上部団体によって「村八分」にされた感情が残っています。

新会長は上部団体に対して、新しい対応が求められています。



## 連載

### 集団力学研究所 大浜参入記（その4）—緊急事態その後

---

突然の隣家解体、境界問題と、大揺れに揺れた高橋邸は、表面上は平穏を取り戻していた。隣接地はコインパーキングとなり、マンションが建つことも当面はなさそうだった。隣家と壁面を共有し、その解体によってむき出しとなっていた北側の壁も、以前から修理に携わってきた市岡の手で補修された。

前回の会合で得られた「人々の集う場所」というキーワードを軸に、研究所としては高橋邸の魅力を広くアピールし、活用することで保存につなげようと考えていた。2014年の1月には、所長の杉万の発案で、「高橋邸の魅力」というビデオクリップが制作された。引っ越しのきっかけをつくった立石がインタビュアーとなり、市岡が物語る形式で、広間や欄間など、町屋の細部を説明し、その歴史的な価値と魅力を解説した。

しかし、大塚夫人の意向はまた少し違っていた。家主の大塚夫妻にとっては、解体騒ぎの影響はあまりにも大きなものだった。隣地の関係者や業者とのやりとりは数々の心労をもたらしたし、壁面の修理には少なからぬ金銭の負担を伴った。

4月の「地域塾」例会では、大塚夫妻もお招きして、あらためて「高橋邸の保存と活用」をテーマに討議がなされた。参加者からは、カフェなどの飲食営業、外国人の宿泊など国際交流の拠点、物産販売など都市と農村の交流等々、活用に向けた提案がなされた。

だが大塚夫人によると、それに近い案は研究所の引っ越し以前にも検討したことがあるのだという。博多織の織屋としての使用、高齢者介護のデイケア拠点はじめ、具体的な提案もあったが心が動かなかった。集団力学研究所が入居することが一番安心だったから引っ越しを受け入れた。今は解体騒ぎの疲労感が残っているのもさることながら、高橋邸の維持と損傷を考えると、常にオープンとなり不特定の人が始終出入りすることには抵抗があるというのが、大塚夫人の見解だった。

夫妻の意向を無視して高橋邸を「活用」するわけにはいかない。大塚夫人の幼少期の記憶の中でも、2階の広間は大切な場所、軽々しく足を踏み入れてはならない空間だったという。しかし、今後の保存のためには、高橋邸を生かして収益の途を探る必要もあった。

ひとつの試みとして、「看護管理者支援プロジェクト」福岡地区が、初夏から研究所を会場としてスタートした。大塚夫妻にご無理を聞いていただき、広間の床もカーペットでカバーして、十人前後の研修会を週末に行うこととなった。

参加者は、文化財指定の建物を使用するための注意を受けた後、研究所のスタッフによる看護管理研修を受講した。休憩時間には先述のビデオが上映され、高橋邸の歴史と魅力が解説された。受講者の反応は好評だった。

## 研究所からのお知らせ

### 「ビデオ講座 集団力学」好評販売中

グループ・ダイナミックスの理論と実践をビデオでわかりやすく解説。  
「入門編」は無料で視聴いただけます。  
詳しくは研究所ホームページ「出版・ビデオ講座」をご覧ください。

### 組織診断は「集団力学研究所」で

組織や職場を診断するアンケート調査を受託しています。  
・比類ない実績を誇る「リーダーシップPM調査」  
・そのエッセンスを凝縮した「5分間組織診断アンケート」  
職場と組織のご関心にあわせて柔軟に対応します。詳しくは研究所ホームページ「組織診断・研修」をご覧ください。

### 「看護管理者支援プロジェクト（福岡地区）」

「職場や人間関係を見直す手がかりを求めて参加しました。『かや』のイメージを使うだけでも、仕事への見方が変わると思います」（師長）  
「管理者として日々悩むことが多いのですが、取り組めることは身近にたくさんあるんだと発見できました」（病棟主任）  
「聞き慣れない言葉に最初はとまどいしましたが、気軽に質問でき、身近な職場の例で丁寧に解説してもらえました」（師長）

看護の現場の組織活性化と、よりよい職場作りを支援する、新しい研修プログラムです。

「集団力学セミナー」と「夢（ビジョン）を描く技法セミナー」の2コース、ほぼ実費のみの価格設定。詳しくは研究所ホームページ・トップ画面のバナー「看護管理者支援プロジェクト」からお入り下さい。

公益財団法人  
集団力学研究所  
Japan Institute for Group Dynamics

812-0034  
福岡市博多区下呉服町8番246号  
ホームページ <http://www.group-dynamics.org/>  
メール [shurikiken@buz.bbq.jp](mailto:shurikiken@buz.bbq.jp)  
電話 092-980-2601 FAX 092-980-2602